



第15号(平成16年3月発行)
東海ノア協定事務局
(日本原子力研究所・東海研究所内)
Telephone : 029-282-5801
E-mail : t-noah@popsvr.
tokai.jaeri.go.jp

東海ノア通信 第15号 をお届けします。

東海ノア協定事務局では、協定加盟事業所相互の人とのふれ合い・コミュニケーションを構築する事を目的に、現在まで4事業所のご協力を頂き、見学会を開催し延べ83名の参加がありました。今後も協定加盟事業所の協力のもと、実効的活動の推進に向けて取り組んでいきたいと考えております。

東海ノア協定に基づく活動状況は、適宜、ホームページでも紹介しております。アドレスは、<http://tnoah.tokai.jaeri.go.jp/> です。

トピックス

活動状況

- ・ 第24回活動推進幹事会の開催
- ・ 自主保安に関する点検協力活動
- ・ 安全教育に関する協力活動
- ・ 情報交換に関する協力活動

加盟事業所からの紹介

今後の活動予定

東海 NOAH : 東海村 (東海) 那珂町 (N) 大洗町 (O) 旭村 (A) ひたちなか市 (H)

活動状況

○ 第 24 回活動推進幹事会の開催（平成 16 年 3 月 9 日）

主な議題 (1) 平成 1 5 年度の活動状況について

(2) 平成 1 6 年度年間活動基本計画について

(3) 東海ノア通信第 1 5 号の発行について

(4) 第 3 回自主保安に係わる点検協力活動について

(5) 総合訓練の実施結果について

(6) 第 2 回安全教育研修の実施結果について



自主保安に関する点検協力活動

(1) 平成 1 5 年度第 3 回自主保安に係る点検協力活動

- ・ 実施日時 平成 16 年 2 月 10 日 (火) 9 時 30 分 ~ 15 時 00 分
- ・ 事業所名 日本原子力研究所 那珂研究所
(所在地 : 那珂町)
- ・ 点検協力者 3 名
放射線取扱主任者 (所属 : 原子燃料工業株式会社)
防 火 管 理 者 (所属 : 日本照射サービス株式会社
東海センター)
衛生管理者 (所属 : 日本原子力発電株式会社
東海発電所・東海第二発電所)
- * 他 事務局 2 名
- ・ 項 目
 - 1) 安全管理の基本方針
 - 2) 施設内及び他社で発生した事故・トラブルの
水平展開状況
 - 3) 緊急時における対応体制、訓練
 - 4) 教育訓練
 - 5) 規定、規則の整備
 - 6) 緊急事態対応策の検討
 - 7) 現場巡視

・ 点検協力活動の様子



事業所の対応者 (手前右側) と意見交換を行う点検協力実施者 (左側)



管理区域内での作業管理説明を受ける点検協力実施者

安全教育に関する協力活動

○安全教育に関する協力活動

- ・加盟事業所の従業員等を対象とした安全教育研修の実施

日 時 平成 16 年 2 月 20 日 (金) 13 時 30 分 ~ 17 時 00 分

場 所 原電 総合研修センター

内 容 安全管理に関する倫理教育

受講者 6 名 (6 事業所)



安全管理に関する倫理教育講義の様子



安全管理に関する倫理教育のグループディスカッション結果の評価の様子

- ・加盟事業所で企画主催する講演会・公開講座等への参画

防火講演会「火災から学ぶ～火災はあなたのスキを狙っている～」



核燃料サイクル開発機構
アトムワールド講堂で行われた講演の様子
3 事業所 7 名参加

(平成 1 6 年 3 月 2 日、J N C 東海主催)

・原子力緊急時支援・研修センター見学の開催

東海ノア事務局主催（平成 16 年 2 月 24 日）

9 事業所から 17 名参加



原子力緊急時支援・研修センター
の概要説明を受ける参加者



現場の説明を受ける参加者

・加盟事業所で主催する非常事態訓練の視察

核燃料サイクル機構 東海事業所

JNC 東海主催（平成 16 年 3 月 11 日）

6 事業所から 6 名参加



村消防による救急活動を視察する
参加者



県政記者クラブを模擬したプレス発表を
視察する参加者

緊急時に対応するための活動

○ 総合訓練の実施(平成 16 年 2 月 17 日)

核燃料サイクル機構大洗工学センターを発災想定事業所とし、高速実験炉「常陽」で一般商用電源喪失により原子炉が自動停止したことを想定し、総合訓練を実施しました。今回の訓練では、昨年の課題等を踏まえ、情報分析班員 4 名を通報連絡班に支援させる等の状況で訓練を実施し情報分析班の活動範囲と責務に問題点が無いことを確認しました。

今回の訓練は、発災事業所が大洗地区であったことから、大洗地区の事業所の協力本部員は、各事業所で待機し訓練を行いました。また、原研東海研究所に設置した協力活動本部から現地指揮者として 1 名及び情報収集班から 3 名を発災想定事業所に派遣するとともに、情報収集活動や環境放射線モニタリング活動を行いました。訓練には、発災想定事業所および大洗地区協力活動本部員を除く 16 事業所から 69 名が参加しました。次ページに訓練の様子をご紹介します。

平成15年度 総合訓練



協力活動本部員の集結



本部長付き及び記録班の活動状況



協力活動本部活動状況



発災事業所の事業内容・敷地配置の周知



原電のモニタリカーで行われた環境モニタリング訓練の様子



現地指揮所での活動状況の様子

加盟事業所からの紹介

原研東海研究所における事業活動について

日本原子力研究所
東海研究所

はじめに

東海研究所は、昭和32年7月に設置され、原子力の総合科学技術研究センターとして数々の成果をあげてきました。現在、中性子科学研究、先端基礎研究などの原子力の新たな可能性を拓く最先端の研究開発を進めるとともに、原子力利用の基盤を支える物質科学研究、エネルギーシステム研究、環境科学研究、保健物理研究、原子力施設の安全性研究及び原子力技術の利用開発を進めています。

以下に、東海研究所における安全活動の一端を紹介します。

1. 保安管理体制と責任の明確化

1. 1 保安管理体制

保安規定、予防規定等で体制、職務等を規定

1. 2 安全に関する会議体等

原子力安全 ; 原子炉等安全審査委員会、原子炉運転委員会、使用施設等運転委員会、部内安全審査会
一般安全 ; 安全委員会、衛生委員会、部（課）安全衛生管理担当者連絡会議

2. 安全衛生管理の目標と職員等への周知・徹底

2. 1 安全衛生管理の目標

毎年度策定される「安全衛生管理の基本的事項」をもとに「東海地区安全衛生管理実施計画」を作成し、安全衛生管理の目標、ポイント及び重点項目を設定

2. 2 職員等への周知・徹底

- ・「東海地区安全衛生管理実施計画」を安全委員会、部安全衛生管理担当者連絡会議、建家安全衛生管理者会議等で周知・徹底
- ・「東海地区安全衛生管理実施計画」をもとに各部の「安全衛生管理実施計画」を作成
- ・作成した実施計画は、部・課室安全衛生会議等において職員等へ周知・徹底

3 . 運転・保守・品質管理

3 . 1 運転管理

- ・ 運転管理体制 ; 保安規定、予防規定等で規定
- ・ 運転手引等 ; 運転手引等の作成(改訂)は、部内安全審査会で審査後、部長が承認
- ・ 運転上の制限の遵守 ; 記録、監視、巡視・点検等で確認
- ・ 運転計画と管理 ; 年間運転計画及び実施計画の作成、通知、関係課室への周知、調整等

3 . 2 保守管理

- ・ 保守管理体制 ; 運転管理と同様の組織体制で実施
- ・ 施設等の保守 ; 施設定期自主検査計画書等を作成・実施(検査項目は保安規定等で設定)、工程会議を開催
- ・ 非定常作業 ; 保安規定に基づく「修理及び改造計画」を作成、部内安全審査、部長、所長が承認

3 . 3 品質管理

- ・ 品質保証管理規程等に基づき、安全上重要な施設、系統及び構成機器について設計、製作、工事、運転等に係る品質保証活動を実施
- ・ 原子炉等安全審査委員会、原子炉運転委員会等において、技術上及び安全上の検討を行い、安全を確保

4 . 教育訓練

4 . 1 教育訓練計画

「東海地区安全衛生管理実施計画」に基づき計画的に教育訓練を実施

4 . 2 入所時の教育

放射線安全の基礎、臨界安全、異常時の措置、関連法令、施設配属時の教育等を実施

4 . 3 保安教育訓練記録の一元管理

4 . 4 協力業者への教育訓練

放射線業務従事者に対する教育訓練を定期的に実施、講演会等を開催

5 . 事故・故障等の対応

5 . 1 規定等

「原子力事業者防災業務計画」、「防護活動要領」を制定

- ・ 対応体制 ; 保安規定、防護活動要領で規定
- ・ 周知徹底 ; 教育訓練、訓練等により周知

- 5 . 2 対応設備等
 - ・ 防護活動本部室、防護隊待機所、現場指揮所等
 - ・ 原災法に規定する防災資機材の点検・整備
 - ・ 防災監視システム等の整備
 - ・ 非常用電話「6 2 2 2」
- 5 . 3 保安訓練
 - ・ 非常事態総合訓練（2回／年）
 - ・ 非常用電話による通報訓練（毎月）
 - ・ 防護隊の訓練（毎月）
 - ・ 施設で実施する通報訓練等
- 5 . 4 予防保全と事故・トラブル事例の水平展開
 - ・ ヒューマンエラー等に関しては、随時、「事故調査委員会」を設け、原因及び再発防止策を評価、安全管理に反映
 - ・ 他事業所及び商用炉のトラブル事例を水平展開し、再発防止策を実施
- 6 . 安全文化の醸成・モラルの向上
 - 6 . 1 安全文化の醸成に係る活動
 - ・ 安全委員会、衛生委員会、部・課室安全衛生会議等を開催
 - ・ 所長、部・課長（室長）パトロールを実施
 - ・ 関連行事の実施、スローガンの配布・掲示、小冊子の配布
 - 6 . 2 協力会社とのコミュニケーション
 - ・ 協力業者安全協議会、教育訓練、講演会の開催
 - ・ 請負業者安全衛生連絡会、建家安全衛生連絡協議会を開催
 - 6 . 3 地元への情報発信
 - ・ 「インフォメーションプラザ東海」の開館
 - ・ 施設見学会、講演会、原子力施設見学会
 - ・ 周辺自治体が開催するイベントへの参加
 - ・ 成果報告会の開催、講演会等への講師の派遣
 - ・ 「原研ニュース」の自治体への配布

以上のとおり、研究開発活動の推進にあたっては、国民に信頼される研究所を目指し、安全の確保に万全を期するとともに、積極的な情報公開、施設・設備の共用の促進、大学及び他の研究機関との連携・協力、国際協力の推進を図り、開かれた研究開発体制を進めて参ります。

今後の活動予定

- ・ 安全協力委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3月
- ・ 活動推進幹事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6月
- ・ 平成16年度第1回自主保安に係る点検協力活動・・・ 7月

編集後記

東海ノア通信も第15号を発行する運びとなりました。

東海ノア協定が締結されまもなく5年が経過します、今年度下期においては、更なる活動の活性化に向けて、次年度計画を構築したいと考えていますので、東海ノアに関するご意見、ご要望等について、何でも結構ですので事務局までお寄せ下さい。

(東海ノア協定事務局)

